

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：境川遊水地におけるビオトープの自然環境保全に関する取り組み		
水系/河川名：境川水系/境川	河川分類：中小河川	
河川の流域面積：211km ²	整備計画流量：1040m ³ /s	セグメント：2-1
事業：河川改修	事業開始年度	平成2年度
目標設定：定性的	段階	A(フィードバック時)
課題・目的(主な)：流下能力の確保、貴重種、特定動植物の保全		
工法(主な)：移植、植樹		
配慮事項(主な)：河川景観への配慮、委員会、協議会等の開催		

背景・課題、目標設定

<背景>

二級河川境川は、昭和30年代から流域の市街化の進展が著しく、森林や田畑の減少など、土地利用形態が大きく変化した結果、治水安全度が低下した。しかし、下流部は藤沢市街地の中心部を流れており、人家が連坦していることから、河道の拡幅は困難な状況である。

このため、藤沢駅周辺などの沿川市街地の治水安全度を高めるため、河口から約11キロメートル地点に「境川遊水地」を建設し、河川増水時には増水した水を一時的に貯留することで、下流の洪水被害の軽減を図ることとした。

<整備前の課題>

現在、遊水地となっている場所は、かつてその多くが農地であり、農地の周りには、樹林も見られる里地環境であった。

遊水地事業にあたっては、事業計画に対する反対や、環境破壊を懸念する意見があった。

また、遊水地の上部空間については、地元から市民が利用できる運動施設やスポーツ広場の設置などの要望があった。

<整備後の課題>

遊水地の上部空間は、ビオトープ、少年野球場、多目的グラウンドなどを整備しているが、騒音を伴う公園利用を禁止するなどして、生息する動物に配慮する必要がある。

また、遊水地の治水機能の確保した上で、豊かな自然環境を保全していくことが必要である。



取り組み内容・対策例(1/2)

<遊水地計画上の自然環境の保全に関する取り組み>

○上部利用については、平成9年度に学識経験者や地元市、連合自治会長からなる「境川遊水地 多目的利用 整備計画 検討委員会」を設け、「計画の実施に関する基本方針」をとりまとめた。

○野球場やサッカー場など、規模の大きな球技場の設置という地元要望なども踏まえ、基本方針は、「整備ゾーン」と、「自然利用ゾーン」の大きく2つに整理し、整備に当たっては、自然豊かで潤いのある遊水地空間の形成に努めるとした。

○平成15年度に県立公園としての整備方針を決定し、平成16年度から公園整備を実施。

○公園は各池とも中央越流堤を境に、一次池には自然豊かな水辺空間を活かした「自然創出ゾーン」として、様々な生物が生息できるビオトープを整備し、環境学習などが体験できる場を提供している。

二次池には、少年野球場や多目的グラウンド、テニスコートなどを整備し、レクリエーションの場を提供している。



取り組み内容・対策例(2/2)

<維持管理上の自然環境の保全に関する取り組み>

- 豊かな生態系を守るために、ボランティアなどと協働して、ヨシなどの刈取りやカダヤシなど 特定外来種の駆除を実施
- 観察会や小学校の自然環境学習の受入れなどを行い、環境学習フィールドとしての利用を促進
- 大学と協働して生物モニタリング調査を実施(平成25年頃まで)
- 日常管理では、草刈りの時期や場所を工夫し、昆虫や野鳥など、草地に暮らす生物の環境を守ることに配慮



ヨシ・ガマの草刈り



カダヤシの駆除(特定外来生物)

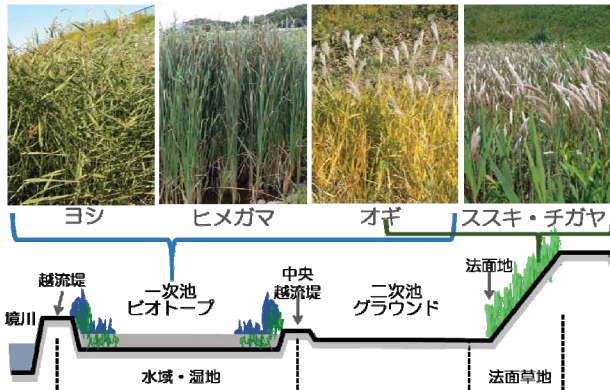


生物モニタリング調査

モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

<モニタリング結果>

平成24年度の動植物調査では、植物約500種、鳥類約90種を始め、全部でおよそ740種の動植物を確認しており、平成21年度の調査と比較すると、種数が増加しており、生物の多様化が図られている。



対象	調査方法	科数	種数
植物	フロア調査	78(72)	502(319)
鳥類	ポイントセンサス・ルートセンサス	33(30)	93(88)
水生生物	捕獲(手網・籠網等)	12(8)	25(18)
哺乳類	足跡調査・直接調査	5(4)	5(5)
爬虫類	直接調査	6(6)	8(8)
両生類	直接調査・捕獲	4(4)	6(6)
昆虫類	採集・直接観察	29(24)	101(70)
合計		167(148)	740(514)

※ 平成24年度調査結果、()内は平成21年度調査結果

<今後の課題と対応方針>

- 植生遷移の進捗等による湿地の生態系等への影響
 - ・ヤナギの高木化(湿地の乾燥化の進行)
 - ・ヒシの繁茂(水域狭小化による水鳥の生息環境減少、水質悪化など)
- 池底の堆積物の増加による治水力への影響
 - ・洪水時の越流による堆積が進行
- 今後、自然環境調査を実施し、維持管理計画を見直す予定



ヒシの繁茂(水域狭小化)

備考